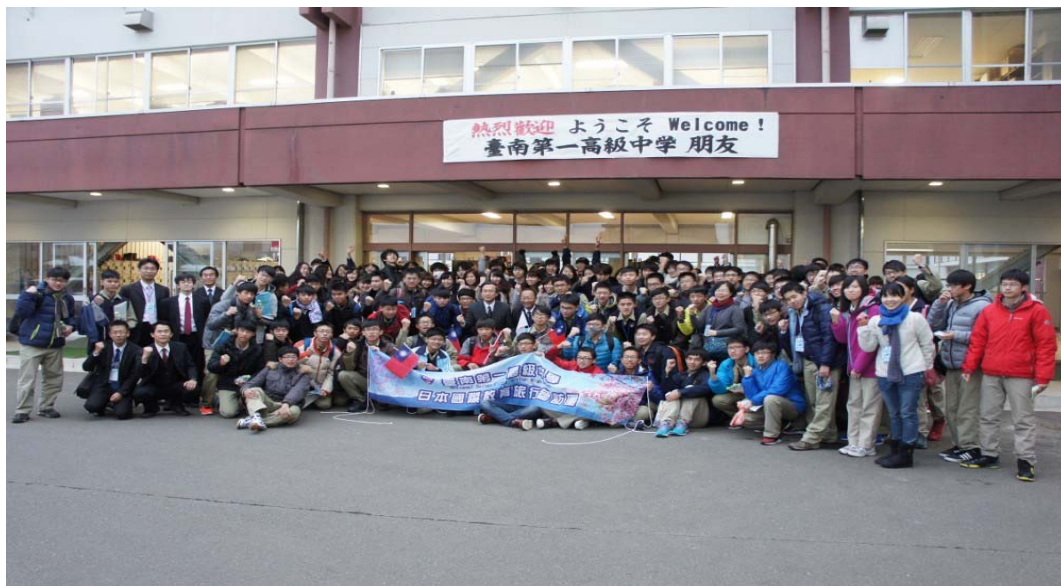


台湾訪日高校生と積極的に文化交流



―校舎前での記念撮影―
―生徒昇降口

宮城県インバウンド事業の一環

台南第一高級中学 来校

～ 台湾訪日教育旅行学校交流受入 ～

1月26日(火)、台湾の有数な進学校のひとつである台南第一高級中学の生徒72名(男子70・女子2)が来校し、交流を行いました。学友会が中心となり、できるだけ多くの生徒で歓迎をしたいとの呼びかけに応じて、北門付近から生徒昇降口までを1年次生が、校舎内では2年次生が中心となって拍手や歓声で台湾の生徒を出迎えました。「このような素晴らしい歓迎を受けたのは初めて!」と感激していたそうです。



=歓迎セレモニーの様子 (本校理科講義室) =

< 互いの記念品の交換 - 歓迎セレモニー >

会場である理科講義室では、学友会と放送部

が司会進行を担当し、代表挨拶の後、互いの学校紹介を映像を使って行いました。台南一中からは、プレゼンテーションとして生徒代表による中国こまの妙技や流暢な日本語による挨拶がありました。記念品の交換の時には、それぞれの品々に拍手が湧きました。記念品については、本校図書館に展示してありますので、ご覧いただくことができます。

< モチベーションアップ - 英語交流授業 >

当日6校時の1年2組、2年3組の英語の授業に台南一中の生徒が班に分かれて参加し、英語による異文化交流を行いました。自国の紹介、お薦めの珍しい食べ物、部活動の説明、流行しているものなどを話題にして、会話が盛り上がっていました。



参加した生徒の感想は、「もっと熱心に英語を勉強して、臨機応変に英語で対応できるようになりたいと改めて感じた。」「英語に表現しきれないことが多々あって、悔しかった。」「台湾の人々はとても英語がペラペラだったので、自分たちも理解力や言語力をつけておかなければならないと思った。」など、今後の英語学習に向けての動機付けに繋がるものが多くありました。



＝言いたいこと、上手く伝わっているかな？＝

また、授業については「全体としてはすごく楽しくて、国際化している社会により興味がわく良い切っ掛けになった。」「もっと台湾のことについて調べておくべきだった。」「普段から英語の語彙力をつける必要性を感じた。」「楽しくて、あっと言う間だった。もう少し長く話してみたかった。」「十分に話すことができなかつたけど、良い経験と思い出になった。」等に代表される意見が多く寄せられました。

今回のように、非ネイティブすなわち、英語を母国語としない人々との英語による交流を通して、参加者たちは改めて国際語としての英語の必要性を感じたようでした。



＝佐藤先生、英語のチェックはお手柔らかに＝

台湾との交流については「台湾人と話しするのは初めてだったので、楽しかったです。」「台湾人の英語力の高さに驚いた。」「今回の交流授業では、日本と台湾のお互いの文化などについて情報交換でき、とても良い経験となった。」という多数の感想がありました。これを機会に、台湾と日本のより良い理解が進むことでしょう。



＝食べ物や流行について情報交換は大事＝

< 伝統受け継ぐ姿を紹介 - 部活動見学 >

放課後には、部活動見学を設定しました。予め見学に快諾してくれた部活動（弓道部・箏曲部・茶道部・ジャズダンス部）の部員たちが各活動場所へ希望者を案内してくれました。台南一中の生徒たちは、日本の伝統的な文化を継承する姿や若者らしい斬新な創作舞踊に挑戦する姿に目を輝かせていました。



＝箏曲部の琴演奏を鑑賞(秋桜館和室)＝

学友会 学校交流をきっかけに
被災地支援へのお返しになれば…

台湾南部地震に募金活動

2月6日（木）現地時間の午前4時頃、台湾・台南市でマグニチュード6.4の地震がありました。政府災害対策センターによると、市内のビルの集合住宅が倒壊するなどして、100人以上の死傷者が出ました。

この報道を受けて、本校の学友会は台湾南部地震への支援のため、早朝の募金活動を始めました。これは東日本大震災時の台湾の被災地支援に対するお返しと先月交流したばかりの台南第一高級中学がある場所への思いが表れたものです。県観光課に入った連絡によると、幸い



＝生徒昇降口前で募金活動をする学友会＝

台南一中の生徒・職員は全員無事だということでした。

また、学友会の呼びかけに賛同して、募金に協力してくれる生徒がたくさんいました。